

仏教学専攻（修士課程）の3つのポリシー

【教育の理念】

仏教学専攻は、仏教の教義と曹洞宗の立宗の精神に基づく建学の理念を基礎として、1) 幅広い教養と専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、2) 価値観や意見の多様性を理解し、他者と協働する力、3) 情報分析しその問題を適切に解決する能力を身につける為に、「丁寧な教育」「厚みのある教育」を施し、自己形成に不断に努め、社会の発展に寄与しうる人材の育成を教育の理念とする。

仏教学専攻（前期2年の「修士課程」および後期3年の「博士後期課程」）では、上記の理念を主軸とし、学部教育において養われた基盤の上に、仏教学並びにその隣接分野において、広い視野と精深な学識を授け、当該の研究分野で先導者として個人の様々な能力および高度な専門知識を積極的に社会に発信する姿勢を有する人材の育成を目指す。

また、大学院生自身の有する、専門分野の顕在的および潜在的能力の高度な展開を促す為の指導を行う。併せて、学界、地域社会、企業社会、グローバル社会など各界・各領域・各所で、リーダーとしての役割を担いうる積極性、情報処理能力、コミュニケーション能力を修得させ、社会的活躍を担えるような指導も行う。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

仏教学専攻は、先述の教育の理念に基づいて定められた下記の3つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本専攻が定める所定の単位を取得し、指導教員の研究指導を受けた上で、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。「修士」の学位の質保証のため、カリキュラム・ポリシーを綿密に履行することを十分に意識してカリキュラムを構築し、学位の客観的な保証を行う。

(DP1) 専門分野の知識や技能の活用力

禅学・仏教学・宗教学・インド哲学などに関する高度専門的な学識と、幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野における先導者として、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に対応するだけでなく、積極的に新たな価値を創造・提案し、地域社会・国際社会・産業界に還元していくことができる。

(DP2) 情報分析する能力、課題を設定し、課題に内包される諸問題を解決する能力

禅学・仏教学・宗教学・インド哲学などに関する基礎的な知識や先行研究を踏まえ、自ら主体的に課題を設定する力と、さらに高度な専門的な情報を収集・分析して適正に判断・思考しながら、問題解決までの道筋を論理的に展開できる実行力や新たな知見を見出す能力を兼ね備えている。

(DP3) コミュニケーション能力

論文作成やプレゼンテーションを通じて、自らの考えを論理的かつ明確に伝えると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて世界に向けて自らの考えを発信することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

仏教学専攻修士課程では、「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた3つの能力を養成する為に、仏教学という学問領域の特性に応じた体系的な教育課程を提供する。博士後期課程における教育課程編成と実施は、授与する学位ときわめて密接な関連を有するものであることより、その充実に向けて最新の研究動向を踏まえて更新され続けなければならない。それに当たっては、ニーズに適い、かつ体系的な教育課程を編成し、定期的に自己点検・自己評価を実施することを通して、不断の改善に努める。

また、修士課程における研究の成果として提出される修士論文については、審査基準を明確にし、その修士論文の評価結果を基に、学位を授与された者が研究を継続していく上で、向上・進展を図ることができるように支援・指導を行う。

さらに、本専攻に属する学生に対しては、自らの研究の専門領域ばかりでなく、社会に対する貢献・責任に関する意識の向上を図る。

加えて、先行研究ばかりでなく、情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、教育課程の中で直接・間接に研究倫理に関する高い意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、高度な専門知識と研究能力のさらなる向上を目的として、当該テーマに関する先行研究の批判的検討、文献講読、論文作成等に関わる教授と指導を綿密に行う。具体的には、本専攻（修士課程）の教育課程は、禅学・仏教学・宗教学・インド哲学などにわたっており、多様な時代や地域に応じた思想・文化・歴史についての研究が十全に遂行できるように編制されており、またそのことを念頭において教員が配置されている。
- 2) 演習科目は、専門領域・研究課題に応じて修士論文作成上必要とされる事項について演習形式で緻密な研究指導を行う。
- 3) 1)～2)の集大成として提出される修士論文を完成させ、それについて審査および最終試験を実施する。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、基礎的な研究手法や研究能力の修得を目的として、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 演習科目を中心とする修士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、意思疎通を綿密に図りながら実施する。
- 3) それぞれの授業科目を、組織的に履修することにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。
- 4) 修士論文の審査にあつては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身につけていることを詳細に確認する。

- 5) 自らの考えを論理的かつ明確に伝える能力を養成する為に、修士課程・博士後期課程の院生を中心に大学院仏教学研究会が組織され、定例研究発表会の場が設けられている。
- 6) 研究倫理教育は、研究科・専攻に拠らない一般的な内容については e ラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、研究指導を通じて指導することにより補完する。
- 7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって専攻において検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

仏教学専攻の修士課程では、入試結果と研究計画書などに基づき、学生の仏教学に関する専門的な学修の基礎能力を評価し、各指導教員の指導に反映させる。とくに研究計画書により、研究の進捗を把握し、学修能力の向上の程度を評価する。さらに、希望する進路の確認を通して、学生の能力が、博士後期課程において研究を継続するに適しているか、あるいは社会に出る適正があるかを検証する。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1・2	◎	◎	◎	禅学・仏教学・宗教学・インド哲学などに関する知識および情報収集・分析などの研究活動上必要な知識や手段について体系的に身につける。
演習科目	4	1・2	◎	◎	○	個別の研究テーマに関する指導教員との密接なコミュニケーションに基づいて、議論や発表を行い、修士論文作成に役立つ。
実習科目	該当科目なし					
修士論文	—	—	◎	◎	◎	2年間の学修の集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身につけ、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

仏教学専攻修士課程は、仏教学という広範な研究領域に関する高度な専門的知識や研究技術を兼ね備えた学生のうち、駒澤大学大学院に入学した後もより高度な専門知識や研究技術の向上、さらには思考力の深化を目指し、自律的に研究活動を行う明確な目的意識と意欲的に研究に取り組む姿勢を有した入学者を求める。また、入学希望者に対しては、仏教学並びにその隣接分野において、広い視野と精深な学識を授け、当該の研究分野で先導者として個人の様々な能力および高度な専門知識を積極的に社会に発信する姿勢を有する人材の育成を行うとする、仏教学専攻の教育の理念を理解した上で出願することが望まれる。また、学問的に伝道教化の研究を志す学生を受け入れることも視野に入れている。

こうした受験生を適正かつ公正に選抜するため、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

- (AP1) 禅学・仏教学・宗教学・インド哲学などに関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 学士課程までに学んだ、たとえば禅学・仏教学・宗教学・インド哲学などの専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 地域社会、国際社会、産業界の事象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠をもって論理を展開することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの考えを適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験 (学内推薦入学試験を含む)	出願書類	◎	◎	○	○	学士課程レベルの基礎的な専門知識を有すると認められる者を対象とし、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。専門分野や外国語(英語)に関する筆記試験、面接口試を実施する。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等を行う。
	筆記試験	◎	◎	○	○	
	面接試験	◎	◎	○	○	
社会人特別入学試験	実施していない					
外国人留学生入学試験	出願書類	◎	◎	○	○	外国籍を有し、大学院教育を受けることを目的とした受験生を対象とし、特に入学後の研究計画と日本語能力を重視し、書類選考を行う。外国語(英語)に関する筆記試験を実施し、さらに入学後の研究計画を論述してもらう。加えて、面接口試(一部面接試験)を実施する。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等を行う。
	筆記試験	◎	◎	○	○	
	面接試験	◎	◎	○	○	